

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

白老町まち・ひと・しごと創生推進計画

2 地域再生計画の作成主体の名称

北海道白老郡白老町

3 地域再生計画の区域

北海道白老郡白老町の全域

4 地域再生計画の目標

本町の人口は、1985年（昭和60年）の24,353人をピークに減少に転じ、2015年（平成27年）には17,740人と、30年間で6,613人の減となっている。また、住民基本台帳によると令和2年7月末には16,442人となっている。

国立社会保障・人口問題研究所によると、今後一層、本町の人口減少は進み、2045年（令和27年）には7,770人になると推計されている。

本町の年齢3区分別の人口をみると、生産年齢人口（15歳から64歳）は総人口と同様、1985年の16,354人をピークに減少に転じており、2010年では10,857人である。年少人口（0歳から14歳）は、1975年の6,334人をピークに減少に転じており、2010年では1,917人とピーク時に比べ1/3以下と大幅に減少している。1970年代の年少人口は一般的には団塊ジュニア世代といわれるものであり、全国的にも出生数が増加した時期である。高齢人口（65歳以上）は、平均寿命の延びなどから、現在まで一貫して増加しており、2010年では6,600人である。

過去10年間の人口動態をみると、▲418人～▲263人の範囲で推移している。

自然動態をみると、出生数の減少と死亡数の増加が相まって、平成24年以降▲200人台となっている（令和元年には250人の自然減）。特に、平成22年以降の出生数は100人を下回っており、少子化の進行がうかがわれる。出生数の指標となる本町の合計特殊出生率（平成20年～平成24年）は1.27であり、道とほぼ同レベルであるが、国と比較すると0.1程度低い値となっている。

社会動態をみると、近年の転入数は600人前後を保っており、転出数は減少傾向にあるものの、令和元年には76人の社会減となっている。

このように本町の人口動態は自然減、社会減の状態となっており、未婚化・晩婚化等の進行を背景とした出生率の低迷や、進学や就職等を契機とした若い世代の道央圏・首都圏等への流出が主な要因となっている。加えて、老年人口の急速な増加に伴う、生産年齢人口の減少により、労働力不足が顕著にあらわれ、地域経済の縮小や活力の低下が大きな課題となっている。

これらの課題に対応するため、ウポポイを契機とした関係人口の創出や、若者や子育て世代の定着を図るための環境づくりを進め、若い世代の流入促進による人口減少の抑制と人口構造の適正化を図り、自然減、社会減に歯止めをかけていく。

なお、取り組みにあたっては、「まちの創生」、「ひとの創生」、「しごとの創生」の3つの戦略を多面的に展開し、人口減少の抑制と地域経済の活性化を図りながら「若い世代に選ばれるまち、高齢になっても住み続けたいまち」の実現に向け、以下の柱を推進していく。

- 柱1 ふるさと白老への誇りと愛着を育み、未来を拓く「ひとづくり」
- 柱2 新たな人の流れと活力を生み出し、地域経済の自立性を高める「しごとづくり」
- 柱3 多様な関係がまちを支え、誰もが安心して暮らし続けることができる「まちづくり」

【数値目標】

5-2の ①に掲げ る事業	KPI	現状値 (計画開始時点)	目標値 (令和6年度)	達成に寄与する 地方版総合戦略 の基本目標
ア	年間出生数	51人	60人	柱1
	まちへの愛着度	57.8%	65.4%	
イ	経済波及効果額	88億円	179億円	柱2
ウ	居住評価	35.9%	44.7%	柱3
	定住評価	54.3%	64.1%	

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

5-2のとおり。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

○ まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する
特例（内閣府）：【A2007】

① 事業の名称

白老町まち・ひと・しごと創生推進事業

ア ふるさと白老への誇りと愛着を育み、未来を拓くひとづくり事業

イ 新たな人の流れと活力を生み出し、地域経済の自立性を高めるしごとづくり事業

ウ 多様な関係がまちを支え、誰もが安心して暮らし続けることができるまちづくり事業

② 事業の内容

ア ふるさと白老への誇りと愛着を育み、未来を拓くひとづくり事業

若い世代が安心して子どもを産み育てることができる環境づくりを進めるとともに、子どもたちに対して豊かな感性や生きる力を育む教育を進める。また、まちに関わる誰もが、まちに誇りと愛着を持ち、地域を支えられるように地域活動を担う人材育成を進める。

【具体的な事業】

- ・子どもたちが元気に健やかに育つひとづくり
結婚支援体制の充実、妊娠・出産・子育ての切れ目ない支援の推進
- ・未来を拓く次代のひとづくり
生きる力を育む教育の推進
- ・ふるさとの価値を高めるひとづくり
地域を支える人材育成 等

イ 新たな人の流れと活力を生み出し、地域経済の自立性を高めるしごとづくり事業

生産性の高い産業の育成・強化に努めるとともに、多様な地域資源を活かして地域ブランドの磨き上げを行う。また、人と仕事をつなぐ仕組みをつくり新たな担い手の確保や育成に努めるとともに、ウポポイを核として周遊型の観光振興を進め、交流人口の拡大、地域経済の好循環を創出する。

【具体的な事業】

- ・活力ある産業づくり
稼ぐ産業の育成・強化、地域ブランドの磨き上げ
- ・人と仕事をつなぐ仕組みづくり
地域産業の人材誘致・担い手育成、多様な人材が活躍できる雇用環境の整備
- ・交流による賑わいづくり
ウポポイを起爆剤とした観光振興、スポーツを通じた交流の促進 等

ウ 多様な関係がまちを支え、誰もが安心して暮らし続けることができるまちづくり事業

地域経営の視点に立った行財政運営のもとで、まちの生活基盤づくりを進めるとともに、若い世代を中心にまちへ人を呼び込むための取り組みとして移住・定住を進める。また、まちに関わる全ての人や主体が多様な機会・場を通じて関係性を深め、互いに支えあえるまちづくりを進める。

【具体的な事業】

- ・誰もが安心して暮らせるまちづくり
災害に強いまち、住みよい住環境の整備、元気で健やかに暮らせる地域づくり
- ・「住みたい」を叶えるまちづくり
移住・定住に対する支援の充実
- ・“関わり”を活かしたまちづくり
地域の絆づくり、多様な連携の推進、関係人口の創出・拡大
- ・時代にあった持続可能なまちづくり

地域経営の視点に立った行財政運営の推進 等

※なお、詳細は白老町第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略のとおり

③ 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（KPI））

4の【数値目標】に同じ。

④ 寄附の金額の目安

620,000千円（2020年度～2024年度累計）

⑤ 事業の評価の方法（PDCAサイクル）

毎年度10月頃に外部有識者による効果検証を行い、翌年度以降の取組方針を決定する。検証後速やかに白老町公式WEBサイト上で公表する。

⑥ 事業実施期間

地域再生計画の認定の日から2025年3月31日まで

6 計画期間

地域再生計画の認定の日から2025年3月31日まで